

肥満小児の体脂肪分布と生活習慣病リスク ファクターに関する研究

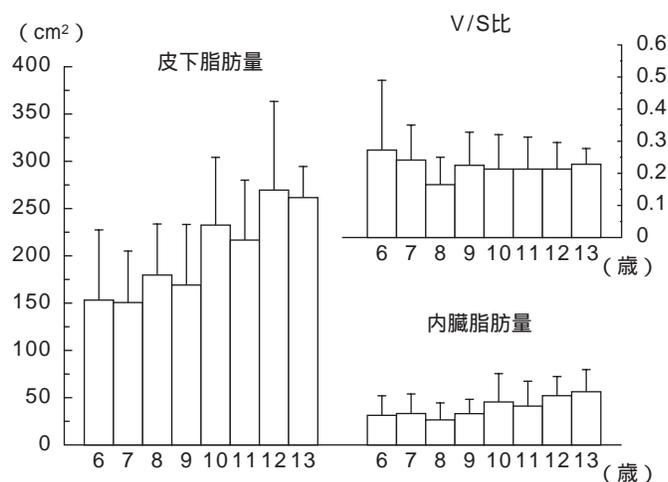
研究代表者 三重大学 富樫 健二
解 説 吉岡 利忠

小児の肥満は他の病気や成人肥満への移行、さらには劣等感による不登校、いじめなどに結びつくことが多い。本論文では、肥満小児の体脂肪分布の実態を皮下脂肪および内臓脂肪面積から分析するとともに血液生化学検査を得て、将来の生活習慣病予防に関する基礎的データを収集しており、貴重な報告書です。

小児肥満は高度な肥満を呈していても成人型と異なり皮下脂肪型であることが判明しました。このことから小児の場合、いわゆる生活習慣病危険因子は皮下脂肪量が関連することが考えられます。さらに、脂肪代謝、肝機能、ホルモンなどの分析値に標準値を逸脱するものが多く、体脂肪量全体を早期に正常化させることが必須であると報告しています。本人の肥満に関する正しい知識、家庭環境、学校における教育からも肥満に対する正しい対応が求められることになるでしょう。



小児肥満は皮下脂肪型で、体脂肪量を早期に正常化させることが必要だ。



発育に伴う肥満小児の体脂肪分布変化